



令和 8 年 7 月 2 2 日

四 国 地 方 整 備 局

四国地方整備局入札監視委員会第一部会の審議概要について

四国地方整備局入札監視委員会第一部会は、本年度 1 回定例会議を下記のとおり開催しました。

審議は、四国地方整備局（港湾空港関係事務を除く）が令和 7 年 1 0 月から令和 8 年 3 月までに発注した工事、建設コンサルタント業務等、役務の提供等及び物品の製造等の中から委員が抽出した 8 件の入札・契約手続に関する事項について行いました。

審議概要は別添のとおりです。

記

開催日時：令和 8 年 6 月 2 9 日（月） 1 4 時～ 1 6 時

場 所：高松サンポート合同庁舎災害対策室

問い合わせ先（◎：主な問合せ先）

四国地方整備局

主任監査官 高木 宏（内線 2 1 1 4）◎

契約管理官 山本 隆（内線 2 2 2 2）

技術開発調整官 小竹 良（内線 3 1 2 0）

監査官 塩田 太郎（内線 2 1 1 6）

TEL：087-851-8061（代表）

四国地方整備局 入札監視委員会第一部会第1回定例会議 審議概要

開催日及び場所	令和8年6月29日(月) 高松サンポート合同庁舎 13階 災害対策室						
委員 (部会委員5名)	部会長	梶谷 義雄	(香川大学教授)	敬称略			
	委員	齊藤 真吾	(弁護士)	委員は50音順			
	委員	土屋 哲	(高知工科大学教授)				
	委員	西中 美和	(香川大学大学院教授)				
	委員	森川 さち子	(公認会計士)				
審議対象期間	令和7年10月1日 ～ 令和8年3月31日契約分						
審議案件	総件数 8件(工事 4件、建設コンサルタント業務等 3件、役務の提供等及び物品の製造等 1件)						
	入札方式	件 名		契約の相手方	契約金額(千円)	入札者数	落札率(%)
工 事	一般競争(政府調達協定適用)	令和7ー11年度 山鳥坂ダム本体建設(第1期)工事		安藤・間・熊谷組・浅沼組特定建設工事(共)	24,292,301	1	92.20
	一般競争(政府調達協定適用)	令和7ー11年度 安芸道路安芸トンネル工事		清水建設(株)	7,716,500	9	92.32
	一般競争(政府調達協定適用外)	令和7ー8年度 窪川佐賀道路小黑ノ川改良外工事		植田興業(株)	311,300	5	91.62
	一般競争(政府調達協定適用外)	令和7ー9年度 徳島管内広域管理設備修繕工事		(株)西島製作所	215,600	1	99.93
建設コンサルタント業務等	簡易公募型競争入札	令和7ー8年度 新宇治川排水機場外駆動設備等検討業務		(株)東京建設コンサルタント	50,710	1	80.27
	通常指名競争	令和7ー8年度 徳島県警察学校外空調設備改修設計(2)業務		(株)建綜研	9,900	5	79.58
	簡易公募型プロポーザル	令和7ー8年度 宿毛内海道路地質リスク検討調査業務		大日本ダイヤコンサルタント(株)	47,344	5	100.00
役務の提供等及び物品の製造等	随意契約	令和7年度 仁淀川SRS設備外製造		JRCシステムサービス(株)	108,350	1	99.78
報告事項	① 指名停止等の運用状況 ② 談合情報等への対応状況 ③ 再度入札における一位不働状況 ④ 低入札価格調査制度調査対象工事の発生状況 ⑤ 一者応札の発生状況、入札者及び技術(企画)提案書提出者が1者の発生状況 ⑥ 不調・不落の発生状況 ⑦ 高落札率の発生状況(工事) ⑧ 四国地整及び事務所ごとの平均落札率						
委員からの意見質問、それに対する回答等				別紙のとおり			
委員会による意見の具申又は勧告の内容				特になし			
備考							

1. 抽出案件の審議概要

(1) 一般競争入札（政府調達協定適用）

意見・質問	回 答
令和7ー11年度 山鳥坂ダム本体建設(第1期)工事	
●低入札について	
5者中、4者が低入札となった理由は何か。	発注者が積算条件を詳細に公開し、質問にも丁寧に回答しているため各社の積算精度が高まったこと、数量の大きい工種で単価のわずかな差が金額に大きく影響すること、特別調査による材料単価等では一部が非公開になることなどが要因として考えられる。
●低入札調査について	
4者が低入札調査に係る追加資料を提出せず、入札が無効となっているが、期限内に提出しなかった理由は何か。	低入札で契約すると技術者の増員など追加条件が課されるため、それを避けた可能性がある。
低入札調査に応じないのは一般的なのか。	調査に必要な資料準備の負担も大きいため、調査に進まないケースが多く、最近では低入札での契約はほとんどない。
●当件の結果について	
今回の入札結果をどう考えているか。	発注者側も課題と認識している。各社が調査基準価格を狙った結果、わずかな積算差で明暗が分かれた。今後は価格競争より技術力評価を重視するやり方を考えていきたいと思っている。
意見・質問	回 答
令和7ー11年度 安芸道路安芸トンネル工事	
●技術提案について	
「トンネルの品質確保」に関する技術提案の差が、落札決定に影響していると思われる。技術提案の評価点に大きな差がついた理由は何か。	省人化施工の的確性、安全性、実現性を評価しており、提案内容の優劣が比較的明確に表れている。
「省人化評価」と「施工体制評価」における人員の評価内容について確認したい。	「省人化評価」は、新たな総合評価方式(SI型)の技術向上提案として求めた特定作業において、どれだけ少人数で実施できるかを評価しているもの。一方で「施工体制評価」は工事全体の品質確保に必要な人員・資機材を確保できるかを見るもので、別の観点で評価している。

(2) 一般競争入札（政府調達協定適用外工事）

意見・質問	回 答
令和7―8年度 窪川佐賀道路小黒ノ川改良外工事	
特になし	
意見・質問	回 答
令和7―9年度 徳島管内広域管理設備修繕工事	
●1者応札及び落札率について	
想定した参加企業数が107者と多数であったにも関わらず、1者応札となった理由は何か。 また、落札率が99.9%と高い理由は何か。	補正予算で全国的に同種工事が大量に発注され、技術者不足が生じたため、各社が受注案件を絞った可能性がある。 また、修繕工事は標準単価がないため、入札の参加者に見積書を求め、採用した歩掛・単価を公表していることから、予定価格に近い入札が可能になったと考えている。
●受注者について	
元々の設備を導入した企業は落札者と同じ企業なのか。	修繕工事等は設備を導入した企業でなくとも対応は可能であると考えているが、落札者は元々の設備を導入した企業である。
元メーカーであることが応札につながったのか。	発注者側もその影響はあったと認識している。設備を熟知している強みがあった。

(3) 簡易公募型競争入札（建設コンサルタント業務等）

意見・質問	回 答
令和7―8年度 新宇治川排水機場外駆動設備等検討業務	
●1者応札について	
1者応札となった理由は何か。	ポンプ設備を扱える業者自体が全国で13者程度と少なく、さらに同時期に類似業務の発注が集中したため、各社が受注対象を選別したと考えられる。

(4) 通常指名競争入札（建設コンサルタント業務等）

意見・質問	回 答
令和7―8年度 徳島県警察学校外空調設備改修設計(2)業務	
特になし (競争性は十分確保されていることが確認された)	

(5) 簡易公募型プロポーザル（建設コンサルタント業務等）

意見・質問	回 答
令和7ー8年度 宿毛内海道路地質リスク検討調査業務	
●技術提案について	
落札者の技術提案が高評価となった理由は何か。	事業の透明性確保のための地質リスクや関係機関との情報共有など、事業管理上重要な観点について具体的かつ実現性の高い提案がされていることを評価している。

(6) 一般競争入札を経て不落「随意契約」へ移行（役務及び物品）

意見・質問	回 答
令和7年度 仁淀川SRS設備外製造	
●予定価格と調査基準価格の差について	
予定価格と調査基準価格との差が大きい理由は何か。	調査基準価格は、会計規定に基づき（役務および物品製造等の場合は）予定価格の6割で機械的に算定されている。

2. 入札・契約手続きの運用状況等の報告（令和7年10月～令和8年3月）

①～⑧

意見・質問	回 答
特になし	

3. まとめ（梶谷部会長）

1者応札などの指標は例年と同様横ばいであるが、全国的に建設業者が減少しているなか、四国の場合は特に建設業者が減少している率の高い県が存在することから、全国よりも、気を付けないといけない地域だと考えている。

今回の審議案件では、大型の案件が2件あり、入札価格がどの会社も非常に似ている状況であった。企業の積算の能力が向上したことにより、このような状況にならざるを得ないと思うが、整備局側からは、価格もあるが、より技術力で評価していく方向にシフトしなければいけないとの話があり、これは非常に納得できるものであった。

これを是非、事業者の皆様とも共有していただき、無理に低価格を狙うというより、技術力を上げて、そこで勝負して、競争が働く方向に進めていただければ、と考えている。